

【臨床・研究】

月経困難症患者に対するジドロゲステロン
(デュファストン®) 連日投与の検討こ ぼやし まさ ゆき や かべ かず ゆき
小 林 正 幸 矢 壁 和 之
ひら の はる ひと
平 野 開 士

キーワード：ジドロゲステロン，月経困難症，基礎体温

要 旨

ジドロゲステロン（デュファストン®）は以前より切迫流産，黄体機能不全などに頻用されているが，月経困難症の適応もあることは意外に知られておらず，投与方法も明確ではない。今回は投与方法の基礎検討を行った上で，連日投与の有用性と基礎体温からみたジドロゲステロン投与中の病態につき検討した。ジドロゲステロン1日10~15 mg（2~3錠）の投与では排卵抑制の程度は軽いため間欠的投与は好ましくなく持続投与が良いと判断した。デュファストンは持続投与中においても月経様出血を認めることが特徴であり，排卵抑制は少ないと考える。基礎体温は明らかな2相性を示さなくなる症例が多かった。月経困難症の程度は程度の差はあるものの軽減された。ジドロゲステロンの持続投与は増殖期を作らないことと，内因性のプロゲステロンの抑制を介するプロスタグランジン産生抑制により月経痛を改善していると思われた。

はじめに

ジドロゲステロンは添付文書では排卵抑制はなく，体温上昇作用もないとされている。また血栓症の副作用報告もなく，廉価であることが特徴である。しかし詳細な投与方法の記載はないのが現状である。今回は基礎体温測定を行い，投与方法の基礎検討を行った上で，連日投与の検討を行った。

ジドロゲステロン投与方法の基礎研究

投与方法として，①5日目から21日間投与7日間休薬を繰り返す，②月経の5日目から21日間投与を繰り返す，③連日投与を検討した。投与量は1日10 mg から開始して効果不良の際には15 mg まで増量した。

図1に示すようにジドロゲステロン投与中に排卵があるとジドロゲステロンの消褪性出血は起こさず，本来の月経の時期に出血を起こす。またジドロゲステロン内服中でも本来月経が来る時期

Masayuki KOBAYASHI et al.

浜田医療センター産婦人科

連絡先：〒697-8511 浜田市浅井町777-12

浜田医療センター産婦人科